

第20回 愛媛臨床パス研究会

パスとともに働こう ～パスをよりよく活用するために～



日時 令和6年8月24日(土)13:00～16:30

場所 愛媛県立総合科学博物館 多目的ホール

当番世話人 愛媛県立新居浜病院
臨床パス委員会 委員長 矢野 真理

ごあいさつ



第 20回 愛媛クリニカルパス研究会 当番世話人
愛媛県立新居浜病院 産婦人科 医監部長 矢野 真理
(同院 クリニカルパス委員会 委員長)

第20回愛媛県クリニカルパス研究会を5年ぶりに対面開催する運びとなりました。今回の世話人を務めさせていただく、愛媛県立新居浜病院の矢野真理です。2003年に始まり、今回で20回目を迎える研究会を、新居浜の地で開催できることを誠に光栄に思っております。

昨今は円安の影響もあり物価の値上がりが大きく、治療費に対する患者様の眼も厳しくなっております。治療や看護に漏れなく、だれにでも標準レベルの医療を最適な治療費で病状に必要な日数で行うことができるクリニカルパスの役割は大きくなっております。

今大会のテーマは「パスとともに働こう～パスをよりよく活用するために～」です。各病院より10題の演題が寄せられました。アウトカム評価や評価漏れを防ぐために、パス委員の業務量について、新規パスを作る取り組みやバリエーション分析からのパス作成について、新型コロナウイルス感染症パスについて、など興味深い演題が並んでおります。多忙な業務を行いながら演題を寄せていただいた各病院の世話人の方々やパス委員の皆様に深く御礼申し上げます。

今回の特別講演は日本クリニカルパス学会評議員である済生会熊本病院の中熊英貴先生に、「パスとの”出会い”や”目覚め”、”これから”について」と題したご講演を賜ります。皆様にもパスとの出会いや目覚めがありましたように、今回の講演はこれからのパス運用について考える良い機会になると思います。

対面開催の良さは、忌憚のない意見交換にあると思います。今回の研究会が、参加する皆様の明日からのパス運用に役立つことを願っております。

愛媛県立総合科学博物館へのアクセス

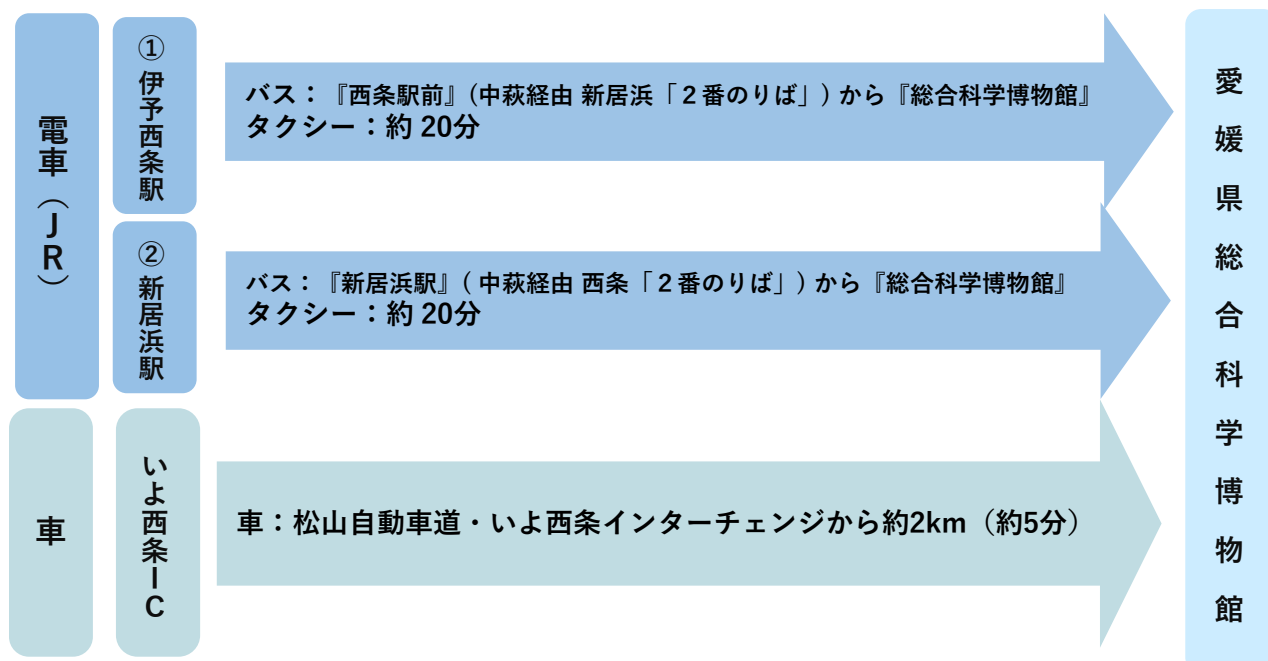
〒792-0060 愛媛県新居浜市大生院2133-2 愛媛県総合科学博物館 TEL: 0897-40-4100

※自家用車で来場の場合

立体駐車場（右図「P」のマーク）をご利用ください。

満車の場合は、博物館建物裏（図の右下）のグラウンドにも駐車可能です。

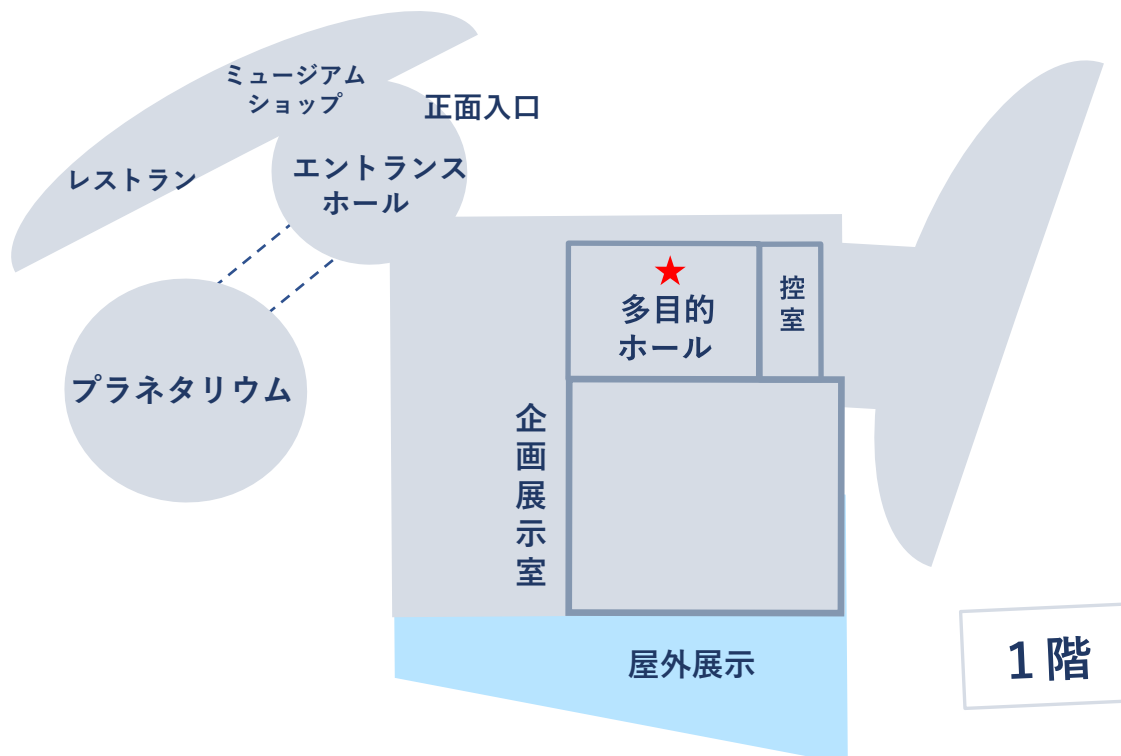
※施設周辺住民の安全確保のため、博物館へ車両で進入する際は、案内表示のある交差点をご利用ください。（図の「通行禁止」区間は住宅地ですので、通らないようご注意ください。）



参加者への案内とお願い

1. 参加受付は、12 時 00 分から多目的ホール前で行います。
2. 参加費として1人 1,000 円を受付にて申し受けます。
3. 本研究会は、日本クリニカルパス学会の「教育研修」に認定されており、教育単位1単位を取得できます。会場にて「受講証明書」を発行いたします。 <https://www.jscp.gr.jp>
詳細は日本クリニカルパス学会のホームページをご確認ください。

※会の終わりに、証明書の半券を回収します。誤って持ち帰らないようご注意ください。



4. 発表者の方へ

【スライド発表】

発表はすべてPCを使用しての発表となります。資料はPowerPointで作成してください。

会場で用意しているPCは、Windows10 Pro MicrosoftOffice2019となります。

動画がある場合と、Macで作成された場合は、必ずご自身のPCをお持ちください。

PC本体をお持ち込みの場合は、PC本体に外部出力（HDMI）が使用できることを

必ずご確認ください。合わない形状の外部モニタ出力端子の場合は、ご自身で変換アダプタをご用意ください。なお電源アダプタをお忘れなくご用意ください。

提出データについて、当日の発表内容の変更がある場合は、USBメモリ等の記憶媒体（Windowsのみ）またはPCを持参してください。

※当日は動作確認のため、受付開始の15分前までにお越しください。プログラムの進行につきましては、座長の指示に従ってください。

（発表時間 7 分 質疑応答 3 分）

第20回 愛媛クリニカルパス研究会

メインテーマ	「バスとともに働こう～バスをよりよく活用するために～」
日 時	令和 6 年 8 月 24 日（土） 13:00～16:30
場 所	愛媛県立総合科学博物館
参加費	1人 1,000円

12:00～ 受付
13:00～ 当番世話人 挨拶
13:05～ 一般演題（スライド発表）

座長 県立新居浜病院 消化器内科 医監部長 山子 泰加

- | | | | | |
|-----------------------------------|----------|-----|----|-----|
| 1. クリニカルパスWGにおける学習会の取り組み | 愛媛医療センター | 看護師 | 正岡 | 小百合 |
| 2. 呼吸器内科病棟における新規パス作成の取り組み | 愛媛医療センター | 看護師 | 井口 | 麗梨 |
| 3. バリエーション分析を基にしたパス作成 | 松山市民病院 | 看護師 | 日朝 | 綾 |
| 4. 評価方法を変えることで見えたパスの改善点 | 済生会西条病院 | 看護師 | 烏谷 | 力 |
| 5. 新型コロナウイルス感染症パスの標準適用日数を超えた患者の分析 | 住友別子病院 | 看護師 | 岡田 | 貴子 |

座長 県立新居浜病院 耳鼻咽喉科 医長 岩田 真治

- | | | | | |
|----------------------------------|-----------|-----|----|----|
| 6. 患者アウトカム未評価チェックの効率化と今後の展望 | 愛媛県立中央病院 | 看護師 | 竹田 | 直弘 |
| 7. アウトカム評価忘れを減らすための取り組み | 四国がんセンター | 看護師 | 池辺 | 琴映 |
| 8. クリニカルパスの集計データから見た現状と課題 | 愛媛県立新居浜病院 | 看護師 | 近藤 | 京子 |
| 9. 当院におけるクリニカルパスでの看護記録見直しへの取り組み | 済生会松山病院 | 看護師 | 江田 | 義樹 |
| 10. クリニカルパス委員の業務量アンケート調査から見てきた課題 | 市立宇和島病院 | 看護師 | 石井 | 友笑 |

15:20～ 特別講演 座長 県立新居浜病院 産婦人科 医監部長 矢野 真理

済生会熊本病院 医療情報調査分析研究所 中熊 英貴 先生
演題 「パスとの”出会い”や”目覚め”、”これから”について」

16：20～ 事務局報告及び次回世話人挨拶
16：25～ 閉会挨拶



一般演題（スライド発表）

座長	県立新居浜病院	消化器内科	医監部長	山子 泰加
	県立新居浜病院	耳鼻咽喉科	医長	岩田 真治

1. クリニカルパスWGにおける学習会の取り組み

愛媛医療センター 看護師 正岡 小百合

当院のクリニカルパスWGは、年度毎に新たな委員の入れ替えがあり、委員のパスに関する知識普及の必要性を感じ、学習会に取り組んだ。

学習会実施にあたり、学習ニーズを把握するため委員にアンケートを実施した。結果から「クリニカルパスの基本」「アウトカム」「バリエーション」について学習会を行った。学習会実施後は知識の定着を目指し、看護師国家試験問題から抜粋した振り返り問題を導入した。また、学習会後の理解度評価のため、委員にアンケートを行い「だいたい理解できている」以上の評価が得られた。

昨年は、新たに委員となったスタッフが多かったことや、学習会の内容を検討したためクリニカルパスの基礎知識を中心に知識提供型の学習会の実施となった。今年度はより実践に活かせるよう、講義と実技を取り入れた学習会を組み立て、計画的に学習会を行うことが課題である。

2. 呼吸器内科病棟における新規パス作成の取り組み

愛媛医療センター 看護師 井口 麗梨

当院では2020年に電子カルテが導入され、既存の紙運用クリニカルパスを電子化してきた。呼吸器内科を専門としたA病棟では、結核パスの電子化移行について医師と検討した際に、結核パスは使用件数が少なく、パスを適用しても患者の状態によってバリエーションが多いとの意見があり電子化を断念した。その後2023年度は、局所麻酔下胸腔鏡検査、在宅酸素療法導入パスを新たに作成することとした。使用度の高いパス作成により、患者を中心とするチーム医療の実現、安全かつ質の高い医療の提供を目指すことができる。またパス作成にあたり担当医だけでなく、多職種と連携し意見を取り入れたことで多職種も活用しやすいパスが作成できた。今後は新規パス2例を実際に適用し評価、修正を行っていきクリニカルパスの使用件数を上げていけるよう取り組んでいきたい。

3. バリエーション分析を基にしたパス作成

松山市民病院 看護師 ○日朝 綾 川本 美加
診療情報管理士 魚見 直史

当院は、2014年に電子クリニカルパス（以下、パス）へ移行後、毎月パスリンクナースによりバリエーション集計を実施してきた。オールバリエーション方式で主に看護処置やケアを集計し、タスクの修正を行ってきた。しかし、良質な医療を効率的、かつ安全に提供するための多職種を交えた多角的なバリエーション分析には至っていなかった。そのため、昨年度から分析方法について診療情報管理士と共に検討している。

当院では近年、全身麻酔をかけて抜歯術を受ける患者が増えてきており、医療の標準化を目指し抜歯術パスを作成した。その際、アウトカムやタスクが設定されていないパスを適用し20症例以上のデータをとった。得られたデータから歯科医師・診療情報管理士と協力し、入院日数や薬剤・処置・看護の多角的な方面からバリエーション分析を行った。バリエーション分析から、根拠のあるアウトカム・タスクを設定することができたため報告する。

4. 評価方法を変えることで見えたパスの改善点

済生会西条病院 看護師 鳥谷 カ

「はじめに」

当院はゲートウェイパスを紙運用している。今回、鼠経ヘルニアクリニカルパスを集計・分析したところ思わぬ気づきがあったので報告する。

「活動内容」

過去1年間に経験した全身麻酔例と腰椎麻酔例を集計した結果、共にバリエーションは発生していなかった。念のためオールバリエーションで集計をしてみると、後者は全例が術後輸液の減量や中止になっていた。医師に術後輸液の中止を提案した結果、麻酔が完全に醒めるまで時間を要すること、容態悪化の際にルートがある方が速やかな対応が可能といった安全面に考慮して、輸液は減量するが、翌朝まで維持速度で滴下するように変更になった。

「考察」

評価方法を変えたことが問題点の抽出と、安全面に考慮した改定に繋がった。これは紙パスだからできたのではないかと考える。

「結論」

パスに問題はないという分析結果が出ても、評価方法を変えると問題点が見つかることがあることを学んだ。

5. 新型コロナウイルス感染症パスの標準適用日数を超えた患者の分析

住友別子病院 看護師 ○岡田 貴子 和田 桂子

新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」とする)は、2023年5月に感染症法5類へ移行した。病態の解明と治療法の確立により感染対策も変化し、患者へ関わりやすくなった。

2021年10月よりコロナ患者の入院受入病棟として296人(2024年3月末時点)の患者を受け入れてきた。当初よりパスを作成し標準適用日数を10日間としたが、平均在院日数は14.2日であった。2023年度のコロナパス使用者87人中24人が11日以上在院日数であった。

今回、パス標準適用日数を超えた患者は、①コロナ発症を契機とした他疾患の併発があった、②ADL低下によるリハビリテーションが必要になった、③入院前に比べADLが低下し退院後の生活様式の再編が必要になった。以上3点が上位の要因として挙げられ、コロナパスにおいても多職種介入によるチーム連携が必要である事が示唆された。

6. 患者アウトカム未評価チェックの効率化と今後の展望

愛媛県立中央病院 看護師 竹田 直弘

日々の患者アウトカムの評価では評価忘れや入力漏れがあり、それに対するシステムの通知機能や統計機能がないことから、各部署のパス担当者が分担して評価入力の確認を行っていた。確認作業は、症例毎に行うため時間を要しパス担当者の負担となっていた。そこで、パス担当者の作業負担を軽減し、効率的に未評価を集計できるツールを検討した。データの抽出にはMicrosoft® Accessを用いて一覧表を作成し、共有ファイルシステムに保存して、どの電子カルテ端末からでも閲覧できるように情報を共有した。ツールを用いて一括に未評価チェックをすることで病棟単位での確認作業が不要となり、パス担当者の負担軽減に繋げることができた。現在行っている集計は1カ月毎であるため、日々の業務で未評価を見つけ評価入力に繋げることは難しい。そのため、今後は未評価をなくすための取り組みとして、適宜集計できるツールへの改良やRPAを用いた自動集計の導入に発展させていきたい。

7. アウトカム評価忘れを減らすための取り組み

国立病院機構四国がんセンター 看護師 ○池辺 琴映
医師 羽藤 慎二

【はじめに】

四国がんセンターのクリニカルパス推進委員会では、「アウトカム未入力率（評価忘れ）3.0%以下」を目標に活動しているが、なかなか目標達成できない状況であった。今回、評価忘れを減らすための方法を検討・実践することで、効果的な結果が得られたため報告する。

【方法】

パス委員が自部署の評価忘れを確認する方法として、電子カルテ内のパス統計システムを活用した。また、病棟スタッフ同士が日々の評価忘れを確認し合える方法として「患者一覧」画面の表示を変更し、「見える化」を図った。

【結果】

2022年度の月ごとの未入力率は、中央値3.75%（最低6.3%、最大2.3%）であり、目標達成した月は1年のうち2ヵ月のみであった。対策を実施した2023年度の未入力率は中央値1.75%（最低5.1%、最大1.1%）であり、目標達成した月は1年のうち10ヵ月と増加した。

【結論】

電子カルテの統計・表示システムの活用は、アウトカム評価忘れ対策に有用であった。

8. クリニカルパスの集計データから見た現状と課題

愛媛県立新居浜病院 看護師 近藤 京子

当院は2003年頃からクリニカルパスを導入している。2013年9月に電子カルテシステムの導入をきっかけに電子化、2021年8月に電子カルテメーカーを変更し、現在3年が経過しようとしている。

クリニカルパスは電子化後、日数の短縮や注射内容等の大幅な見直しを行った。しかし現在のメーカー変更時は新たな見直しをせず移行し、各科が一部修正をするのみで使用している。

パス委員として、パス申請のサポートやバリエーションデータの報告のみで、部署へ還元できるデータの提示はできていない。委員会においても新しいパス作成に対する活動も消極的である。

今回のパス大会のテーマをきっかけに、システム変更後のパスに関連したデータをまとめてみたところ、今後の委員会活動への取り組むべき課題や改善項目が見えたため報告する。

9. 当院におけるクリニカルパスでの看護記録見直しへの取り組み

済生会松山病院 看護師 ○江田 義樹
医師 楠 勝介

当院では2004年7月より紙媒体でのクリニカルパス運用を開始した。2010年8月より富士通製電子カルテを導入し、電子パスの運用を開始したが、アウトカム評価と看護計画の立案・看護記録を継続していた。以前より看護職員の超過勤務軽減の一環として看護記録の見直しを検討しており、BOM導入によってアウトカム項目の拡充が出来たため、パス適用患者の看護記録見直し、看護記録簡略化パスの作成について取り組むことにした。

【活動内容】

- ・パス事務局・パス委員会・看護部記録委員会で記録方法について検討。
- ・現行パスのBOM項目を追加修正した看護記録簡略化パスの作成。
- ・現行パスと看護記録簡略化パスの比較、立案すべき看護計画と必要な看護記録の検討。
- ・看護記録簡略化パス運用による看護記録について厚生支局提出用の資料作成。
- ・今年度を目途に運用開始予定。

10. クリニカルパス委員の業務量アンケート調査から見てきた課題

市立宇和島病院 看護師 ○石井 友笑 藤谷 恵美 久米 理恵

A病院では、2023年9月より新たにクリニカルパス（以下、パス）専従看護師が1名配属された。パス委員の業務として、パス監査やバリエーション分析など以前よりパス委員の業務負担が懸念されていた。そこで、パス委員の業務量アンケート調査を行い、業務量の変化や今後の課題が明確化したので報告する。

2023年度パス委員看護師14名を対象に、業務量アンケート調査を実施し、回答100%であった。アンケート結果は、パス監査の業務量が増加したと答えたのは0件であった。また、業務分担の見直しや監査方法の再検討、パス活動にはパス教育が必要であると分かり、監査方法を変更し、医師用・看護師用のパスリンク集を作成、院内掲示板に表示することでパス教育や啓発活動を行った。

アンケート調査を行った事で、業務量が可視化され当院の現状や問題点を明確化することが出来た。定期的な業務の見直しを行い、今後も業務負担軽減を含めた体制強化が課題である。

特別講演

座長 愛媛県立新居浜病院 産婦人科医監部長 矢野 真理

『パスとの”出会い”や”目覚め”、”これから”について』

講師 済生会熊本病院 医療情報調査分析研究所 中熊 英貴 先生

テーマである「パスとともに働こう～パスをよりよく活用するために～」を伺ったとき、思い浮かんだことが、私がパスに”出会い”、そして、”目覚め”たのか、でした。このような機会を頂きましたので、”これから”も含めて、お話をしようと考えました。どのようにパスに関わっていくのか、携わっていくのか、また、活用するのかなどのヒントになればと思います。

私とパスとの”出会い”は約20年前になります。パス専任ナースの交代時期が重なり、入職して間もなく、「パス、やってみない」とお声掛けいただき、事務員として、関わることになりました。パス大会のワークショップの書記やアウトカムマスタの整理、パス大会のスライド作成支援が主な仕事でした。私はまさにパスとともに働いていました。

しばらくして、仙台で開催されました日本クリニカルパス学会学術集会に参加することになりました。そこで、様々なパス関係者にお目にかかることが出来、さらに、発表された方とも交流し、「次回の学会では、私も発表しよう」と決意しました。”目覚め”たのです。そこからは、日本クリニカルパス学会の前理事長である副島先生や理事の河村先生のもと、BOMの作成に深く関わり、また、決意通り、発表も行いました。

電子カルテ（パス）導入、パスに関連したAMED事業や厚労科研事業などを経験し、施設単位ではなく、地域でのパスの活用や解析、その基盤構築に関り、”これから”はその普及に努めていきたいと思っています。

ふとしたことから、パスに”出会い”、学会に参加したことで、パスに”目覚め”ました。皆さんにも同じような機会が転がっているのではないのでしょうか。「パスとともに働こう」です。すでに、「パスとともに働いている」方は、パスを軸に、”これから”何かを考えてみませんか。行き詰まったときは”温故知新”です。私のお話が、その”きっかけ”になればと思います。

講師紹介

氏 名	なかぐま ひでき	
	中熊 英貴	
所 属	済生会熊本病院 医療情報調査分析研究所	
外 部 委 員	日本クリニカルパス学会 評議員 日本クリニカルパス学会 医療情報委員会委員会 委員	
略 歴	2003年6月	済生会熊本病院 医療情報システム室入職 クリニカルパス、手術室や集中治療室部門、ER部門などの担当としてシステムの導入を行う。
	2009年10月	日本クリニカルパス学会アウトカム部会（現、標準化委員会）部会員拝命 部会員としてBOM（Basic Outcome Master）の作成を行う。
	2013年4月	同院 TQM部 診療情報管理室配属 NEC社との共同研究開発において病院担当者としてDWH、NECV（Novel Electronic Clinical pathway analysis Viewer）の構築を行う。
	2015年4月	同院 医療情報部 医療情報分析室配属 データ分析の企画、抽出、可視化、分析および現場へのフィードバックを行う。
	2016年6月	同院 医療情報部 医療情報システム室配属 来年10月に控える電子カルテ更新の担当者として、方針の策定、体制の発足、進捗管理、ベンダーとの交渉を行う。
	2018年10月	同院 AMEDパス事業推進室配属 平成30年度日本医療研究開発機構（AMED）標準的医療情報収集システム開発・利活用研究事業「クリニカルパス標準データモデルの開発および利活用」専任スタッフとして、プロジェクト全体のマネジメントを行う。
	2021年4月	同院 医療情報調査分析研究所配属、現在 院内外の医療プロセス解析支援、医療情報マスター作成・維持管理、外部資金の導入・研究受け入れ窓口などを行う。

愛媛クリニカルパス研究会 会則

第1条（名称）

本会は愛媛クリニカルパス研究会と称する。

第2条（目的）

本会はクリニカルパスを使用した医療、つまりEBMを取り入れた医療の標準化、チーム医療、患者様中心の医療の実施を普及、啓発を目的とするものである。

第3条（構成）

1. 会員：原則として愛媛県内の医療従事者で本会の目的に賛同するものとする。
2. 世話人：会員の中から若干名の世話人を選出し、その中から代表世話人を選出する。
3. 会計監事：世話人の中から選出する。

第4条（事業および運営）

1. 研究会などの開催：本会の目的を達成するために原則として年2回の研究会 および本会が必要と認める事業を開催する。
2. 世話人会：世話人会を南予、中予、東予の3ブロック構成で組織し、本会の運営にあたる。
3. 当番世話人：本会開催のための当番世話人は3ブロックの持ち回りとする。
4. 会の開催にあたっては各ブロック内で決定した施設が行う。
5. 会計監事：本会の財務を監査するものとする。
6. 主旨に賛同する、団体、企業との共催は、世話人会の承認を得て、開催する事ができる。
7. 運営費として各世話人施設から施設年会費を徴収する。

第5条（事務局）

本研究会の事務局は国立病院機構四国がんセンターに置く。

事務局は世話人会の決定で変更できる。

会計は事務局が代行する。

第6条（参加費）

会への参加者からは規定の額を徴収する。

参加費は会場費、通信費などに使用するものとする。

第7条（会則改正）

本会則の変更、会計監事の変更、事務局の変更、世話人の変更・追加は決定で行うことができる。

付則

本会則は2004年3月20日より施行する。

改訂：2007年7月7日

2015年8月29日

別紙1

1. 第4条 7については、2万円/年とする。
2. 第6条（参加費）については、各会の当番世話人が決定する。

世話人施設一覧

施設名	郵便番号	住所	電話番号
日本赤十字社 松山赤十字病院	790-8524	松山市文京町1番地	089-924-1111
愛媛県立中央病院	790-0024	松山市春日町83番地	089-947-1111
医療法人 千寿会 道後温泉病院	790-0858	松山市道後姫塚乙21番21号	089-933-5131
社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院	799-1592	今治市喜田村7丁目1-6	0898-47-2500
医療法人 住友別子病院	792-8543	新居浜市王子町3番1号	0897-37-7111
社会福祉法人 恩賜財団 済生会西条病院	793-0027	西条市朔日市269-1	0897-55-5100
愛媛県立南宇和病院	798-4131	南宇和郡愛南町城辺甲2433番地1	0895-72-1231
愛媛大学医学部附属病院	791-0295	東温市志津川454	089-964-5111
独立行政法人 国立病院機構 愛媛医療センター	791-0281	東温市横河原366番地	089-964-2411
市立宇和島病院	798-8510	宇和島市御殿町1番1号	0895-25-1111
一般財団法人 積善会 十全総合病院	792-8586	新居浜市北新町1番5号	0897-33-1818
社会医療法人同心会 西条中央病院	793-0027	西条市朔日市804番地	0897-56-0300
愛媛県立新居浜病院	792-0042	新居浜市本郷3丁目1番1号	0897-43-6161
社会医療法人 石川記念会 H I T O病院	799-0121	四国中央市上分町788番地1	0896-58-2222
独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院	792-8550	新居浜市南小松原町13-27	0897-33-6191
愛媛県立今治病院	794-0006	今治市石井町4丁目5-5	0898-32-7111
社会福祉法人 恩賜財団 済生会松山病院	791-8026	松山市山西町880-2	089-951-6111
一般財団法人 永頼会 松山市民病院	790-0067	松山市大手町2丁目6番地5	089-943-1151
公立学校共済組合 四国中央病院	799-0193	四国中央市川之江町2233番地	0896-58-3515
独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	791-0280	松山市南梅本町甲160番	089-999-1111

